

校名：横浜国立大学教育人間科学部附属特別支援学校

所在地：〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-3 電話番号：045-742-2291

記載日：平成 28 年 5 月 6 日 記載者：井出和夫 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

○一人一人の発達と自立への指導

- ・アセスメントに基づく個別教育計画の作成と実践
- ・課題解決能力を育む教科を中心とした指導
- ・集団への適応と個の伸長を図る指導

○教育課題の研究開発と普及

- ・生活の質の向上を果たす教育内容・方法の究明
- ・インクルーシブ教育システムの推進のための指導・支援手法の開発
- ・公開セミナーでの研究開発成果の還元

○大学との連携

- ・附属学校との往還による教職カリキュラムの取組み（教育実地研究、教育実習、教職実践演習等）
- ・介護等体験学生の受け入れ
- ・大学教員との連携した教育課題の研究

○地域との連携

- ・現職教員への公開研修会の実施等、教育コンテンツの提供
- ・教育相談、巡回相談の実施
- ・福祉と連携した障害のある子どもへの余暇支援事業の開催
- ・地域の教育・福祉機関との情報交換と協働

貴校の卒業生の活躍状況について：

○卒業生の進路状況

- ・約半数が特例子会社等への就労
- ・残りは、職業訓練校や就労移行施設を利用

○直近の卒業生へのフォローアップ

- ・定期的または必要に応じて進路先訪問
- ・就労支援センターや障害福祉相談機関との情報交換

○過年度の卒業生へのフォローアップ

- ・年1回のはがきによる現況把握
- ・年4回の同窓会活動の実施

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

○活躍状況

- ・校長、副校長、教頭、主幹・総括教諭等のスクールリーダーとして活躍
- ・特別支援教育に関する教育行政の中核的な人材を輩出

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○夏季セミナーの開催

- ・テーマを決め外部講師と本校職員による夏季セミナーを実施し、地域の教員の実践力を向上する

○知的障害の児童生徒への教科学習の取組み

- ・自立と社会参加に向け、教科を中心とした教育課程を編成しており、知的障害教育における教科学習のモデルとなる。

○知的障害のある児童生徒の交流及び共同学習の取組み

- ・平成 27 年度に文部科学省インクルーシブ教育システム構築モデル事業を受け、「スポーツ教室を通じた児童生徒の心のバリアフリー推進」に取り組んだ。「バレーボール教室」「ブラインドサッカー教室」「ウィルチェアーラグビー教室」を通じて、健常者と障害者の相互理解を図った。



バレーボール教室

元オリンピック日本代表監督、代表選手を講師に招き、本校生徒と卒業生、附属中学校生徒、近隣中学校生徒、小学生バレーチームと一緒に指導を受けた。



ウィルチェアーラグビー教室

パラリンピック日本代表選手を講師に招き、本校生徒と附属横浜中学校生徒と一緒に指導を受けた。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○歴史的な経緯の中で

- ・存在感の希薄化、存在意義や価値の低下

○危機的な状況

- ・公立の特別支援学校等、地域のモデル提供の不十分さ
- ・今日的教育課題へのチャレンジの弱さ

- 地域社会や関係機関との連携不足
- 教育委員会や大学との連携の弱さ
- 保護者との関係の再構築
- アピール不足
- 非効率的な学校組織や会議
- ワークライフバランスのない職場環境
- 社会的な課題への無関心やズシ、視野の狭さ
- 外部や地域との接触の不足
- 自己完結型、外部との接触のない自己満足な状態

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

- 新たな教育課題を先駆的に研究し、成果を地域に還元するはたらき
- 教育委員会と一体となった高度の専門性をもつ教員の人材育成の役割
- 高い実践力と挑戦的に問題解決に取り組める教育人材の開発
- 共生社会を形成に向けて学校や地域に働きかけることができる存在